

中部の

エネルギーを 築いた人々

放送番組制作ディレクターから見た
福沢桃介・川上貞奴

(偉人の年収How much?
日本初の女優・川上貞奴の苦悩と決断)

NHK-Eテレ教養歴史番組「先人達の底力～知恵泉(ちえいず)」と「偉人の年収How much?」の番組で、日本の電力王・福沢桃介と日本初の国際女優・川上貞奴が放映された。

「先人たちの底力～知恵泉」の本放送・「福沢桃介編」は2024年7月30日(火)22:00～22:45、「川上貞編」はパリオリンピックの特別放映があって1週間遅れて8月13日(火)22:10～22:55に放映された。

「偉人の年収How much?」の本放送は2025年7月21日(月)19:30～20:00に放映された。

今回、番組ディレクターがどのような事項について関心を持って制作を進めていったのか、また放映を見た筆者の感想を放映された新しい時点から

その1：日本初の女優・川上貞奴の苦悩と決断

「偉人の年収How much?」－2025年7月21日(月)の放映

その2：次々に新しい扉を開く川上貞

「先人たちの底力～知恵泉」－2024年8月13日(火)の放映

その3：波瀾万丈のススム電力王・福沢桃介

「先人たちの底力～知恵泉」－2024年7月30日(火)の放映

について、3回にわたり報告する。



川上貞奴：日本初の女優
1871(明治4)年～
1946(昭和21)年
出典：文化のみち二葉館蔵

日本初の国際女優・川上貞奴の苦悩と決断

I 川上貞奴の生い立ち

(1) 芸妓・貞奴の時代

1871(明治4)年、日本橋の両替商・越後屋の12番目の子として生まれた。生家の没落により7歳の時、葎町の芸者置屋・浜田屋の女将・亀吉の養女となり、後年、ピカソのデッサンがスペインの美術館にあるほど見目麗しい女性として育った。

亀吉は貞奴のためにお金を使って芸を磨かせた。さらに男勝りの貞奴は、伊藤博文から水泳を習い、また馬術の稽古に励んだ。

岩崎桃介と貞奴のなれそめは、明治18年、貞奴が馬で成田山詣の帰途、野犬に襲われたとき桃介に助けられ、初恋の人となった。しかし桃介は福沢諭吉の2女・房と結婚、福沢家の養子となり岩崎から福沢姓になった。

1887(明治20)年、「奴」の源氏名で芸者となり、当時の名だたる元勳からひいきにされ、名実ともに日本一の芸妓となった。

(2) 「How much?」川上貞奴20才頃の年収

当時、芸妓として1日2円50銭、年収にして2,700万円あった。

しかし費用として、芸者置屋に3割(810万円)、衣装代、チップなど(1,500万円)の支出などがあり、手元に残る収入は少なかったが、ひいき筋の支援金が収入の倍以上あった。

Ⅱ 川上座興行の時代

(1) 川上音二郎と結婚

1894(明治27)年、オッペケペー節で一世を風靡した川上音二郎と結婚し、数奇な人生を送ることになった。媒酌人は、伊藤博文の腹心で、貴族議員の金子堅太郎であった。このころ音二郎は、劇場を建設したが失敗し、また、代議士に立候補して落選するなど、世間からは冷たい目で見られる憂き目にあった。しかし、1899(明治32)年に川上一座を結成しアメリカ公演に出た。

サンフランシスコでは、出しものとして道成寺を演出した。このとき、アメリカでは女形が存在が理解されず、ついに貞が舞台に上ることになった。芸名をつけることになり、ヤッコやサダでは短すぎて、芸名を「サダヤッコ」とすることに決まった。ここに名実ともに「貞奴」が誕生した。アメリカでは芸人を受け入れる文化があり、ボストン、ニューヨークなど各地を回った。そしてワシントンでは、マッキンレー大統領などを招き上演した。

その後ヨーロップへ行き、ロンドンではバッキンガム宮殿に招かれ、ウエールズ殿下の前で演技した。さらに1900年、パリ・万国博覧会が開催されており、会場に近いロイ・フラ劇場で公演した。そしてエリゼー宮殿でルーベール大統領の園遊会が開催され、道成寺を上演し、パリ社交界の常連となった。

(2) 「How much?」欧米での川上座の年収

アメリカで川上座1興業あたりの収入は1週間あたり340万円であった。フランス・パリでロイフラ劇場のこけら落として1回あたり1万5千フランで364興業・総額2,200万円の収入があった。

Ⅲ 二人の再会と二葉御殿での生活

(1) 二人の再会

1911(明治44)年、川上音二郎が病気で亡くなり、追善興行などを行い1周忌が過ぎた。同年、渋沢栄一、福沢桃介らが発起人となり、大倉喜八郎が采配をふるって日本で初めての西洋式劇場である帝国劇場が建てられた。

川上貞奴は、当時、賤業とみなされていた日本の女優を育成するため、ここに帝国女優養成所を創立した。その後、1924(大正13)年には川上児童楽団の旗揚げを行い、二子玉川園に3階建ての養成所を建て、ミュージカルのような児童劇を帝国劇場で上演した。また、桃介も1926(大正15)年、帝国劇場の取締役会長に就任するなど、演劇の普及と向上に多くの活動を展開した。

(2) 「How much?」川上貞奴41才頃の年収

当時1興業あたり1億2千万円、年8回の興業で9億6,000万円の収入があったが、1910(明治43)年に大阪北浜・堂島に建設した帝国座が破産した借金(=80億円)の返済に充てられた。

(3) 二葉御殿での生活

福沢桃介が木曾川の電源開発に全精力を注いだ時に、二葉御殿を建て陰で支えたのが川上貞奴であった。

桃介は、1920(大正9)年、名古屋の拠点として名古屋市東区東二葉町に日本で初めての住宅会社アメリカ屋の設計で二葉荘を建て住まいとした。和洋折衷の斬新さと豪華さから二葉御殿(敷地面積:約16,500㎡、延べ床面積:約3,960㎡)と呼ばれ、政財界人や文化人のサロンになっていた。創建当時は自家発電装置や、屋根の上に庭を照らすソーチライトなどが設置され、中央線の列車からも見えた。

貞は、訪れる来客の接待をとりしきると共に、ときには、ダム建設現場に行く桃介と同行し、工事人を激励した。当時、世間での批判とは別に、忙しく充実した二人の暮らしであった。

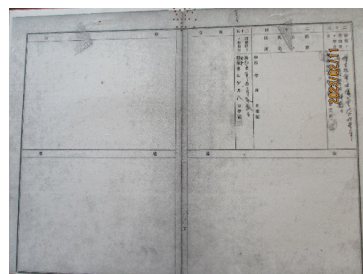
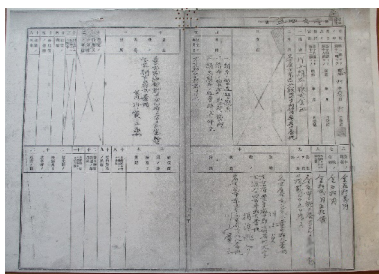
資料１：「川上絹布株式会社登記簿の放映」

二葉御殿生活中の1921(大正10)年に川上絹布株式会社を設立、その概要を紹介する。

川上絹布株式会社の設立

名古屋市上飯田地区は庄内川、矢田川以南と黒川に広がる地域で水が豊富で伏流水が得られ、地価も安く、区画整理によって道路も整備され交通機関も便利になってきたので大正から昭和時代の初めに多くの工場が建設された。この頃の川上絹布工場付近には東京モスリン、東洋紡績、興和紡績などの繊維工場が進出していた。

1921(大正10)年に登記された川上絹布株式会社の登記簿謄本による概要は下記の通りである。



川上絹布株式会社の登記謄本の内容

- (1) 商号：川上絹布株式会社
- (2) 本店：名古屋市東区上飯田町字向砂田34番地(注：昭和19年より名古屋市北区に編入)
- (3) 目的：①絹糸の製造ならびに撚糸
②絹布の製造、加工ならびに整理
③絹糸絹布の販売ならびに其の仲立
- (4) 設立の年月日：大正10年11月7日
- (5) 資本の総額：金50万円
- (6) 取締役の氏名、住所
 - ①川上貞、名古屋市東区東二葉町18番地
 - ②福沢桃介、東京都豊多摩郡渋谷町大字下落合436番地
(注：東京・渋谷の福沢桃介の本邸住所)
 - ③川上広三、名古屋市東区東二葉町18番地
(注：川上貞奴の養子)
- (7) 解散の事由および年月日
株主総会決議により大正13年10月13日解散
- (8) 精算終了の年月日：昭和4年4月30日

このように資本金50万円(現在換算額：約2億5千万)の出資を得て、大正8年頃工場建設に着手、操業を始めた。当時の川上絹布の広告を見ると綾織や薄手のベール類、輸出向けの高級絹布などを製造販売していたが、大正13年に倒産、昭和4年に清算終了した。



当時の川上絹布の広告

資料2：川上貞奴・福沢桃介の年譜

川上貞奴	年号	西暦	福澤桃介
	明治 1 年	1868	埼玉県比企郡吉見町で生まれる
東京・日本橋で生まれる	明治 4 年	1871	
	明治16年	1873	川越中学 3 年生から慶応義塾に入学
	明治19年	1876	福沢家と養子縁組
	明治20年	1877	アメリカに留学(2 年 8 ヶ月滞在)
	明治22年	1879	北海道炭鉱鉄道に入社
新派の川上音二郎と結婚	明治27年	1884	結核で療養生活
	明治28年	1885	株取引で千円の元手を10万円
	明治31年	1888	王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代
わが国最初的女優「貞奴」となり、国内外で活躍	明治32年	1889	京橋に丸三商店設立(約 1 年後閉店)
	明治34年	1891	福沢諭吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約 5 年余勤務)
帝国女優養成所設立	明治41年	1908	博福電気軌道設立発起人、豊橋電気㈱取締役就任
	明治43年	1910	名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任)
川上音二郎死去	明治44年	1911	
	明治45年	1912	千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1 期 3 年)
	大正 2 年	1913	再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任
	大正 3 年	1914	愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任
女優引退	大正 5 年	1917	電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任
名古屋市北区に川上絹布㈱を設立	大正 7 年	1918	東海電極製造㈱設立、相談役に就任
			木曽電気製鉄㈱設立、取締役社長に就任
名古屋市東区に二葉荘を建設	大正 8 年	1919	矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長：長男の福沢駒吉)
			東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併)
			大阪送電㈱設立、取締役社長に就任
	大正 9 年	1920	大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併)
	大正10年	1921	関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併)
			大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任
	大正11年	1922	東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)
			東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任
川上児童劇団結成	大正13年	1924	
	大正15年	1926	天竜川電力㈱取締役社長に就任
			帝国劇場㈱取締役会長就任
			東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転
	昭和 3 年	1928	実業界から引退
	昭和 6 年	1931	貞照寺地鎮祭に臨席
岐阜県各務原市鷺沼に貞照寺建立	昭和 8 年	1933	
東京に転居	昭和12年	1937	
	昭和13年	1938	東京の渋谷本邸で死去
熱海で死去	昭和21年	1946	

(寺沢 安正)